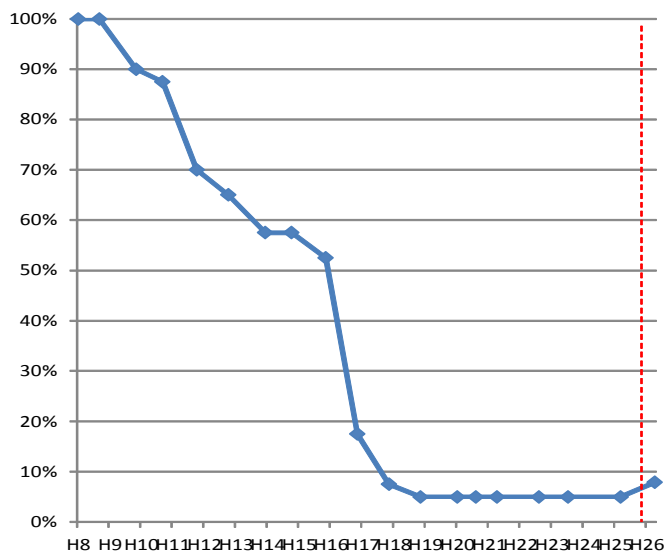


樹種名	キリ	
科 目	ノウゼンカズラ科（ゴマノハグサ科）	
学 名	<i>Paulownia tomentosa</i>	
分 布	原産地は中国とされ、日本では北海道南部以南において植栽される落葉高木であり、中でも福島県の会津桐、岩手県の南部桐が有名である。	
樹木特性	伐ること、若木が早く出て成長することで切りの木、「キリ」となったことから成長は旺盛である。伝統的に神聖な木とされ、その葉と花をデザインした紋が知られ、内閣総理大臣の紋章として利用している。	
用 途	軽い、狂わない、湿気に強い、火に強いので収納家具材（和洋ダンス類）に利用、昭和 30 年頃までは下駄材としての利用も多かった。	
植栽本数/面積 （植栽密度）	252 本／0.10ha (2,500 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 落葉高木で日本各地に栽培され、樹高 10m に達する。葉は大型で稚樹時には 5 浅裂、成長するにつれて全縁となる。幼樹の葉は大きく、直径 1m 近くになり、成長するにしたがって小さくなる。 葉の裏面には星状毛が多く粘り着くような感覚がある。花は 5 月に咲き、秋から冬にかけて翼のある種子をとばす。植栽適地は土壌が深く（1m 以上）排水の良い肥沃な壤土質か砂礫土。斜面なら中腹以下の谷筋が良い。西・北・東北向き斜面は避ける。指標としてスギの成長の良い場所で生育が良好。	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害や強風による幹折れ等が発生し、径級の大きいものは枯死するものがあり、現存率は 7.9%と著しく低い結果となった。コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害防止策として、植栽木の周りの草類の掘取り、根際の石灰散布、こまめな下草刈り払い等で被害の軽減を試みたが決定的な対策とはならなかった。現存する個体の生育は良好であるが、他の試験地でもキリは同様な被害を受けており、山林でのキリの育成は非常に困難と思われた。	
被 害	野兎・鹿の被害は特に無かった。植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が見られた。（延べ駆除本数：39 本）強風による幹折れ等の被害も発生した。幹折れ後には新たなぼう芽があるものの、径級の大きい個体からのぼう芽の発生は低い傾向にあった。	

キリ 現存率



【現存率】

コウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害や強風による幹折れ等が発生している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 7.9%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

現存木は順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 16.35 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

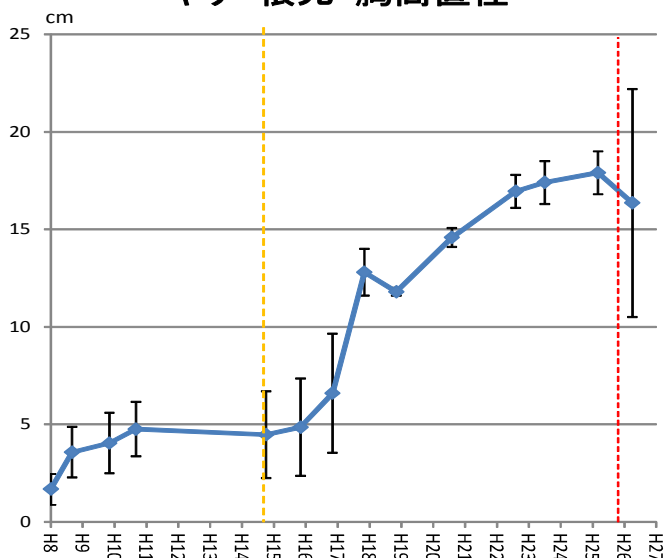
【樹 高】

平成 25 年度の数値が小さくなっているのは、台風等の強風による芯折れである。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 11.85m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

キリ 根元・胸高直径



《プチ情報》

時折、市民から「お化けのような大きな葉の植物が生えてきた、これは突然変異か？」などとの問い合わせがあるのも、キリの稚樹であることが多い。

キリを用材生産する場合、1ha 当たり 40 本内外を植栽（将来は 20 本の密度）。植穴は直径 1m 深さ 50cm、施肥し周囲よりいくらか高くなるような浅植え。当年の初冬か翌春に根元から切り倒す。切り株から出た萌芽の強いものを 1 本だけ育てる（1 年で 4~5m に伸長）。1 年生の萌芽は落葉した葉柄の付け根からいっせいに枝となる芽を出す。3m を標準に芽かきをする。施肥は毎年したほうが良い。植栽後数年間は除草する。根元の周辺（半径 1m）は特に清潔にしておく。6 月と 9 月に穿孔虫の防除（噴霧または樹幹塗布）年 3 回くらい食葉害虫の防除降雪地帯では野兎・野鼠害の防除も必要。15 年生くらいが標準的な伐期齢とされる。

キリは伝統的に神聖な木とされ、その葉と花をデザインした紋が知られる。

中でも右図のような、花序に付く花の数が 5・7・5 の「五七の桐」と呼ばれる紋が有名。

デザインは、枝の先に輪生する大きな葉と、頂生する花を紋様化したもの。



足利尊氏や豊臣秀吉などの天下人が好んで用いたため、政権担当者の紋章と言う認識が広まり、日本国政府も内閣総理大臣の紋章として利用している。政府の発行する国際的な書類としてのビザやパスポートなどのワンポイントマークのように使われている。また、国際的な場での首相の記者会見などでは、演台に桐花紋が飾られることがある。

キリ 樹高

